

第 15 回 SC 国内分科会委員長会議報告

下記の内容で第 15 回 SC 国内分科会委員長会議を開催しました。

- ❖ 日 時 2013 年 7 月 24 日（水） 13：30～17：10
- ❖ 場 所 東京トラック事業健保会館 4 階 第 2 会議室
- ❖ 出席者 各 SC 国内分科会委員長、JNC 委員長、副委員長、幹事団、事務局他

- ❖ 議事内容
- 0. 開会挨拶： 田井委員長
- ❖ お忙しい中 SC 委員長会議にご出席頂きありがとうございます。
- ❖ フローリッヒ会長になってから色々なチャレンジがあり、それらに対して徐々に CIGRE の活動も変わり始めている状況である。
- ❖ JNC の若手の活動は海外と比較して相対的に活発ではないので、今後検討して頂きたい。

- ❖ 本部執行委員会 概要： 土井副委員長
- ❖ 5 月に開催された本部執行委員会について以下の内容が報告された。
 - 4 月に開催された本部 TC の概要報告
 - Web サイト：Kailop 社から提示があり 220k ユーロの予算提示があった。詳細は今後。
 - 他団体（CIRED、IEC、 IEEE）との連携
 - 2012 年の決算は黒字。2011-2012 年の 2 ヶ年決算は赤字が減少の方向。
 - エレクトラの電子化：会員の意向を確認して進める。
 - 2014 年 Paris 大会ルール変更 論文は Web で配信、著者の出席が無い論文は e-CIGRE の論文に記載しない。
 - 女性の活動の活性化に関しては、土井副委員長からの提案に従い、まずは本部で男女比率の統計を取る事となったとの説明があった。
 - ✧ 執行委員会の TF の活動に関して紹介があった。
 - ✧ マーケティング TF での検討：優先度を決定。CIGRE が対外的に認められるようにする。
 - ✧ 表彰委員会 TF での検討：IEEE との比較を行い、表彰制度を見直し権威ある物にして行く方向。
 - ✧ CIGRE ビジョン TF：ビジョンが報告されその内容に関して承認された。
 - ✧ コンプライアンス TF：何を目的として集まりであるかを明確に提示して行く。今後 web にアップロードされる予定。
 - ✧ メンバーシップ TF：会員番号の発行の短縮化、会員管理の在り方見直し、11 月から新システムで実施予定。
 - 日本は、CIGRE 会員が全 57 か国で 4 番目。米国の会員数が増大した為、去年は 3 番目であったが 4 番目となった。
 - CO の改善；要因増大の要求があったが、現状のリソースで改善を進める。現状の改善を検討するメンバー追加を一時的に認める。

Q：著者がすべて出ないと e-CIGRE に論文に採用されないのか？

A：明確な話がなかったが、これまで代理でも OK だったものが、著者 1 名以上参加しないと

e-CIGRE の論文としては採択されないと事になる。著者 1 名が出れば OK だと思われる。

(土井副委員長、福井幹事)

Q : B3 等では個別の議論を行っていたが、TC 個別の表彰制度が議論されたか？

(川北 B3 委員長)

A : Award に対する人数が少なくなる方向。表彰のレベルを上げることが目的である。

(田井委員長)

2. 本部技術委員会 (Technical Committee) の報告 福井幹事

- ❖ 伊藤 A3 本部委員長が欠席の為、福井幹事から SC 国内分科会委員長会議で報告する伊藤 A3 本部委員長の提出資料について簡単に内容が報告された。

3. 2014 年パリ大会論文梗概投稿状況について 福井幹事

- ❖ 2014 年パリ大会論文梗概投稿状況について、福井幹事から下記の内容が報告された。(今回も Format を提示しているにも関わらずこれに沿っていない SC からの論文が幾つかあった。)

- 9 月初旬に論文採択の連絡がある予定。

- 12 月末までにパリ本部へ発送。

Q : 採択された梗概の本論文の和文提出は不要か？

A : 英文のみで OK で和文の提出は不要。

Q : ネイティブチェックは各 SC で実施か？

A : Yes。

4. 会員数の推移と会員数拡大について 松田幹事

- 会員数の推移と会員数拡大について、松田幹事から下記内容の報告があった。
- 日本の CIGRE の会員数は順調に伸びている。世界では第 4 位、アジア太平洋地域では、第 2 位。当面は 800 名を目標に会員増大を図りたい旨 説明があった。
- 若手会員の勧誘。更に個人会員につながるようにしたい。
- 各国内委員会のメンバーの個人会員化を進める。50%以上を目標に会員増大を各委員長へお願いした。

5. 2014 年レギュラーメンバー交代について 松田幹事

- ❖ 2014 年以降の S C 日本代表レギュラーメンバー交代について、松田幹事から下記内容が説明された。

- B1 ではケーブルメーカー間でローテーションを考える。

- 電力会社間で B5、C1、C2 の委員長のローテーションを考慮して調整した。2018 年時点でのローテーションも考えて、今回の対応をしたい。

- C4 と C6 では学界でローテーションを考える。

- 本内容で了解頂いたので今後具体的なメンバーの推薦を行うことで依頼する。

- ❖ 今後のスケジュール委員長交代の手続きに関して依頼をお願いした。

- ❖ 国内委員長 (レギュラーメンバー) を止めてから、2 年程度 SC に参画できると次のメンバーをサポート出来る体制にすると好ましい旨、関根顧問から指摘が執行委員会であった旨紹介した。根岸委員長からそのような体制が必要な場合、JNC から何らかの指針が出されるとありがたいとのコメントがあり、JNC としても各個別の分科会の状況に対応していきたい旨説明。

- ❖ 他の団体では、前委員長がいる場合 **Post Chairman** と呼称している場合がある旨、田井委員長から紹介された。**D2** の場合は、2 年間引継ぎの際にラップするようにしている旨、岩崎 **D2** 委員長から紹介があった。
- ❖ 今回言いづらい内容があれば、別途意見を頂ければありがたい旨、田井委員長からコメントがあった。**JNC** としても言って頂ければ臨機応変に動くので宜しくとのコメントがあった。

6. 2013 年以降の SC 会議日本開催について 福井幹事

- ❖ 2013 年以降の SC 会議日本開催について、福井幹事から報告された。

7. JNC 理事会開催時の指摘事項と対応について 上原幹事

- ❖ JNC 理事会開催時の指摘事項と現状の対応状況について、上原幹事から報告された。

8. 日本国内委員会ウェブサイトの見直しについて 北山幹事補

- ❖ 日本国内委員会ウェブサイトの見直しについて、北山幹事補から下記内容が報告された。
 - Web の想定ニーズ
 - システム機能

今後のスケジュール（今年度中に完了予定。）に加え、**D2** から支援についても紹介がなされた。

C : Web 管理の仕事も今後増えるので配慮が必要であろう。**D2** の Web の変更を行う予定であったが、費用の手当てが今年は出来なく今回は改訂を見送った。**CIGRE** 活動だけでなく、専門家の意見や英語学習のポイント等参考になる内容を記載する事が必要だと考えている。九州でいくら **CIGRE** の認知レベルを高くしようと思って大学に働きかけても駄目だ。今後中央の東大、早稲田、慶応で **CIGRE** 活動のプロモーションと認知度の向上を図ってほしい。（岩崎 **D2** 委員長）

Q : サーバーはどこ物を使用しているか？（**C4** 委員長）

A : 九州電力の関連会社の物を使用している。（岩崎 **D2** 委員長）

9. 日本 **CIGRE** 国内委員会の法人化対応について 今川幹事

- ❖ 日本 **CIGRE** 国内委員会の法人化対応について、今川幹事から下記内容が報告された。
 - 目的
 - 検討体制
 - 検討スケジュール

CIGRE は、会員から徴収したお金を送金している。現状の **JNC** の **CIGRE** の口座は、田井委員長名の口座となっており、これで外国送金他をしている。**JNC** は、収益事業は現状行っていないので特に税金面では問題は無いと認識しているが、更に厳格な組織としてある必要があるか？調査を行っている。

1) 定款を準備し、登記する。事務所を決める必要がある。

2) 総会で定款の変更の承認を図った上で、連絡を貰いたい。（田井委員長）

Q : 一般社団法人になると **VISA** のインビテーションを出せるようになるのか？（川北 **B3** 委員長）

A : **JNC** として発行できるようになる。これだけでも大きなメリットか？（田井委員長）

10. 2013 年 9 月開催 AORC 理事会/技術会議対応について 福井幹事

- ❖ 2013 年 9 月開催 AORC 理事会／技術会議対応について、福井幹事から服部幹事に代わって報告があった。
- ❖ 2014 年 4 月～5 月に日本で開催される事が計画されているが、9 月の AORC 会議でこの内容が決定される予定。

11. 若手・女性技術者の活動支援について 松川幹事補

- ❖ 若手・女性技術者の活動支援について、松川幹事補から下記内容が報告された。
 - 女性技術者への支援適用と若手・女性技術者への活動方針
 - 若手ネットワークの活動について - 若手が 9 分科会で参画している事を確認。
 - 若手の国内分科会活動への参画、英国 NGN との連携
 - 各 SC から若手 1 名を選出して頂き新たな活動を進めるように進めたい。現状若手がい

ない分科会でも検討をお願いしたい。

Q：分科会のメンバーであると制約があるので推薦をどうするか？（片貝 B1 委員長）

A：WG 他で参加しているメンバーの参画でも良いと考えている。（福井幹事）

- ❖ 助走期間も必要であるのでこの辺も配慮して行きたいと考えている。（土井副委員長）

12. 本部よりの TOR に関する対応状況について 今川幹事

- ❖ 本部の ToR に基づき、日本からの参加者に関して WG のレギュラーメンバーもしくはコレスポンディングメンバーでありながら CIGRE の個人会員でない方の個人会員になる事を願った。これらのメンバー並びに上長のフルネーム、住所を連絡して頂きたい旨 今川幹事から各分科会委員長へ依頼された。

13. 各 SC における活動紹介、他 各 SC 委員長殿

- ❖ 各 SC 委員長から、各 SC の活動状況と予定等について、今年 2 月の JNC 総会以降の変更点を中心に説明。

主な説明内容は以下のとおり（配布資料と重複する内容は省略。）

C1：リスボン・シンポジウムで論文を松田幹事が発表。

C2：リスボン・シンポジウム開催で中国の論文は多かったが、著者が参加していないケースが多数あった。会議が成り立たなくなるので今後ペナルティーが要との議論があった。

C3：2013 年 10 月に EMF コロキウムを開催するが発表論文が多く一部ポスターに変更。能鑑賞を C3 パンケットで計画。（コロキウムの Registration8 割済であるが、WG 他での出席は、日本の渡航に関して会計年度の関連で未だ上長許可が下りず一桁の承認。）

C4：今後“TSO と DSO との間での ICT の議論が必要である”とリスボン会議の宿題事項。

C5：特になし。

C6：2013 年に横浜でコロキウム開催予定。

D1：HVDC ケーブルのポリマ絶縁劣化に関して、WG D1.23 でデータが出てきていないで問題になっているとの説明があった。

D2：ITU が主体的に標準化の検討を行っており、D2 では先進的技術の内容を扱っている。2013 年のインド会議への参画について計画を立てるも費用の手当てがつかない状況。

A1：特になし。

A2：2013 年 11 月に CIGRE の活動報告会を国内の研究会で発表予定。

A3：ニュージーランドで 2013 年シンポジウムの開催があるが、2015 年日本・名古屋で開催予定。

2013 年 11 月に CIGRE の活動を国内の研究会で発表予定。

B1：電力側のメンバーがすべて交代した。

B2：DLR のトピックが紹介された。

B3：名古屋で WG。若手技術者が WG に参画。JNC web に WG 報告有。2013 年 11 月に CIGRE 活動報告会を予定。統計学を取り入れた接地設計等を検討する WG が新たに発足予定。

B4：特になし。

B5：保護 Ry の不要な多機能化。ネットワーク化されている Ry の試験をどうするか？

光 ICT の適用課題。分路リアクトル、STATCOM のような特殊変圧器の保護をどうするか？

以上が次回のブラジルコロキウムのテーマ。

- CIGRE のエレクトラに関しては、非常にコンパクトで良い。写真も良いと思われる。
- 日本で何を発行しているかと要請が来ているので何等か発信内容に関しても報告しないといけない。
- 避雷器の参照データの掲載許諾に関する例を基に、著作権に関して明確でないとの指摘があった。（本部並びに JNC での掲載記事が無い。）今後改善する事とした。

13. 閉会挨拶： 土井副委員長

定刻終了に協力頂きかつ熱心な議論ありがとうございました。電力業界も徐々に代わり始めていますが、まだ制約の多い所ではありますが、今後とも積極的な CIGRE 活動について協力をお願い致します。

以 上